

地域連携推進会議

とき 令和7年11月5日(水)

10時00分～11時30分

ところ 四ツ葉園 会議室

1 挨拶 新川会理事長 山岸 親史

2 委員紹介 (会議室)

3 活動見学 (体育館)

防災訓練見学 (上市町消防署指導)

4 講評及び意見交換等 (会議室)

(男性夜勤者)

- ・利用者も避難訓練は慣れていると理解しているが、伝え忘れがあった。職員に対しても、連絡していないことがあった。

(女性夜勤者)

- ・全員避難したと思っていたが、利用者が残っていた。

⇒ 職員が再度避難誘導に行くか、どうかは検討が必要。危険な場合は、無理をしないことも大事。

(消防職員)

- ・開始前に避難時間は30分程と聞いていた。予定通りに30分であった。これは、訓練をされているからこそその時間なんだろう。

- ・今回警戒レベル4で避難となっていた。レベル4となると危険な場所からの避難とされている。避難誘導に30分かかることを考慮すると、その前に避難を始めてもよいのではないかな。大雨がどれくらい降ると避難を始めるなどを日頃から決めておくのもよいのではないかな。

- ・各ユニットからの避難誘導時に、職員一人で、たくさんの利用者を誘導すると、全員には目を配れず違う方向に行ってしまう方がいるため、複数の職員での誘導が良いと思う。パーテーションなどで通路を塞ぐ方法も、もう少し早めにされていたら、違う方向に行く利用者が減っていたと思う。

- ・査察の観点では、廊下に物を置かない。物を置いてドアが開かない、取れない状況にしないことが大切。

- ・コミュニケーションエラーでは、リストを作成し、誘導しながらチェックをしていくという方法もある。共通のワードを作っておく方法もある。

- ・これだけの方々を30分で避難誘導できているのはすごいことだと思った。

(推進委員)

- ・連絡体制では、口調がゆったりで緊張感があるとよかった。

- ・体育館に全員が避難誘導するという事は、大変なことだと思った。

- ・地域では地域支え合いマップを作成しており、地域のどこにどんな人がいるかという情報を作っている。利用者個々の避難情報があっても良いのでは。

- ・体育館では、大きなゾーニングをされていたが、もっと細かいゾーニングにすると、点呼もしやすかったのではないかなと思う。

- ・誘導時に違う方向に行かれる利用者がいた。目に見える誘導があったらよいと思った。在宅者の防災に関しては、福祉課としても協力していきたい。

- ・利用者の表情に注目していた。みなさん、何がおきたのか理解されていないようだった。いろいろな災害を想定して避難訓練しないといけない。

- ・避難誘導した居室を何度も搜索していた。避難が終わった部屋に目印となるものを掲示したら、わかりやすいのではないかな。

理事長挨拶

災害時に地域の障害者が避難する場所、特に重度の方などは、避難生活が長期になる場合、地域の避難所では難しいと考えられる。四ツ葉園が福祉避難所として登録はしてあると思うが、具体的な動きがない。